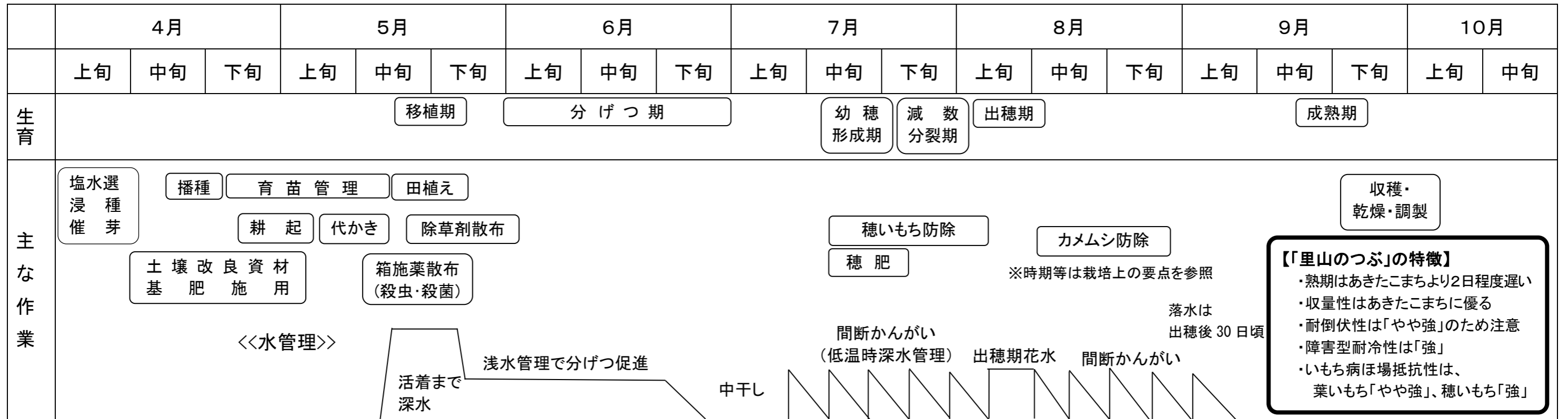


# 福島県オリジナル水稲品種「里山のつぶ」栽培暦

○栽培地帯: 中山間地域(標高300m以上)

令和3年3月  
福島県水田畑作課



**【「里山のつぶ」の特徴】**  
 ・熟期はあきたこまちより2日程度遅い  
 ・収量性はあきたこまちに優る  
 ・耐倒伏性は「やや強」のため注意  
 ・障害型耐冷性は「強」  
 ・いもち病ほ場抵抗性は、葉いもち「やや強」、穂いもち「強」

**【栽培のポイント】**  
用途に応じた食味(玄米タンパク質含有率)を維持しながら収量を確保できるよう、生育指標値と実際の生育や収量、食味等を比較しながら、地域や土壌等、ほ場の条件に応じて窒素施肥量を年々改善していく。

表「里山のつぶ」の目標と生育指標値

時期等	項目	家庭用 会津山間	業務用 (参考値)
目標	玄米タンパク(%) <sup>※1</sup>	≤6.4	≤6.7
	農産物検査	1等	1等
幼穂形成期	草丈(cm)	60≤	—
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	500~600	(550~600)
	葉色 <sup>※1</sup>	36~42	(44)
出穂期	止葉葉色 <sup>※1</sup>	—	(38)
成熟期	稈長(cm)	≤85	—
	倒伏(0-400)	≤100	—
	登熟歩合(%)	85~90	(85≤)
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	450~500	(450~500)
	籾数(x100粒/m <sup>2</sup> )	300~330	(330~350)
	収量(kg/10a)	650~700	(700)

※1 玄米タンパクは水分15%換算、葉色はSPAD502値  
 ※2 倒伏は程度(右図)×面積率で算出  
 ※3 業務用の生育指標値は農業総合センター本部(郡山市)における参考値

**☆窒素施肥量**  
 ・総窒素施肥量の上限 10kg/10a  
 例: 基肥6~8kg/10a+穂肥(幼穂形成期)2kg/10a  
 ・同じ窒素施肥量でも、地域や土壌等、ほ場の条件によって玄米タンパク質含有率が異なることから、生育指標値と実際の生育や収量、食味等を比較しながら、ほ場の条件に応じて窒素施肥量を年々改善していく。  
 ・倒伏 100 超えると、青未熟粒等で品質が低下するため、幼穂形成期の草丈や稈長が生育指標値以内となるよう窒素施肥量を調整する。

**○土づくり**  
 ・堆肥や土壌改良資材を積極的に施用し、地力の向上に努める。

**○種子予措**  
 ・塩水選(比重 1.13)を実施する。  
 ・水温を確認して、十分に浸種を行う。

**○移植**  
 ・栽植密度は畦間 30cm×株間 18~16cm(坪 60~70 株)程度とする。  
 ・風のない暖かい日に移植する。  
 ・活着までは深水管理、活着後は浅水管理により有効茎確保に努める。

**○中干し**  
 ・有効分げつ(≒穂数)確保後に速やかに実施する。  
 小さなひび割れができる程度に田面を固める。  
 〈茎数の目安〉60 株/坪の場合 約 25~27 本/株  
 ・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

**○低温時の水管理**  
 ・穂首分化期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

**○出穂期以降の水管理**  
 ・高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。  
 ・落水は出穂 30 日後を目安とし、早期落水はしない。

**○病害虫・雑草防除**  
 ・「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき防除する。

**☆斑点米カメムシ類の防除**  
 ・畦畔の草刈り  
 出穂 10 日前までに実施する(周囲に出穂の早い品種がある場合にはそれに合わせる)。出穂後は草刈りを行わない。  
 ・農薬による防除  
 〈クモヘリカメムシが多い場合〉  
 散布剤を出穂期~穂揃期とその 10 日後の 2 回散布する。  
 〈アカスジカスミカメが多い場合〉  
 散布剤を乳熟期(出穂期 7~10 日後)とその 7 日後の 2 回散布する。

**○刈取り適期**  
 ・籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。  
 〈刈取り適期の目安〉出穂後積算気温 1,000~1,250°C  
 籾黄化率 80%≤

**○乾燥・調製**  
 ・急激な乾燥や過乾燥、高水分籾の乾燥などを避ける。